

1. NHKドラマ“パラレル東京”を観る

NHKの総合TVで衝撃的なドラマ&解説を観ました。番組名は「パラレル東京」です。12月2日（月）から5日（木）まで4夜連続のドラマでした。2日から8日（日）までの1週間、総合TVでは関連した番組を放送していました。

首都東京に直下型大地震（震度7）が発生し、（NHKに擬した？）TV放送局がその生々しい被害状況を伝えつつ、被災した人々を激励し続けるというドラマでした。放送時間は1時間でドラマ約25分、その後35分がゲスト4名を含む6名を中心とした解説・対談という構成でした。向う30年間に70%の確率で発生すると予想される首都直下型大地震の恐怖をまざまざと見せつけられました。

初日（2日）は19時30分からの放送で、2日目（3日）以降は22時台からの放送でした。この番組を観られた方も多いのではないのでしょうか。この番組は人々にただ恐怖感を植え付けるだけではなく、**地震国に住む私達へ必要な備え・対策を講じることの大切さ**を訴えていたように思います。

折しも今年10月は台風15号や19号襲来、大雨被害などの自然の驚異に晒され多くの人命が失われました。それに加え河川氾濫による自宅の崩壊・浸水や長野新幹線が水に浸かって廃棄に及ぶなど、地域経済活動も多大な影響を受けました。

日本人の悪い癖でもある「喉元過ぎれば熱さ忘れる」や「熱しやすく冷めやすい」等の性状を今改める時期だと警鐘を鳴らしていそうです。気象庁が次の警告を今年何度叫んだことか…！「自分及び愛する家族の身体と生命（と財産）を守る為に早めの避難を」。**何度繰り返されても「体験しないと実感がわかない」**というのも真実でしょう。私もそうでした。このドラマの放送を観るまでは…。

経営者は地球温暖化の影響を受けての自然災害災害が多発する現在、社員とお客様の身体と生命を守る対策について、真剣に考えるべき時期に来ているのかも知れません。BCP（事業継続計画）も重要です。しかし、大切な社員とお客様とを失えば、事業の継続どころではありません。「天災は忘れた頃にやってくる」と言います。**忘れてはいけないのは、「社員とお客様が大事」ということ。**「我が社は大丈夫か？」と総点検を始めましょう。決して早すぎることはないのです。

2. 重要な仕事は朝一番の処理を心掛ける

会社に出社して後、何から始めますか？「20数年前だと新聞に目を通す」が多かったでしょう。しかし今ではPCを開き「メールを確認する」ということが一位に上がってきそうな気がします。

これで良いのでしょうか？**朝一番は十分に睡眠をとった後なので全力で脳活ができる状態**となっています。従って、重要な案件処理、企画書作成、新たな知恵出しの為の思索等々にこの大切な時間を充てるべきだと私は思います。

「メールの受信と返信」も重要という判断もあります。しかし受信メールの返信が1時間程度遅れたからといって業務に停滞が発生するとは考えられません。些末なメール対応に時間を取られていると、やがて取引先から電話がかかってくるなど忙殺される時間がひたひたと迫ってきます。

その結果、最重要な案件処理等が出来なくなり「後で」と悪い習慣の先送りが常態化します。**経営者や経営管理者の意思決定は会社の将来の帰趨を決めます。**そういう重要な意思決定等をいつするのか最も良いのかを考えて欲しいものです。

「夕方にする」。この答は絶対にNGです。一日の終わりは肉体的、精神的に疲れています。特に脳は相当なダメージを受けているはずで**早朝一番、社内外の誰にも影響を受けない静寂の時間帯を脳活の時間帯に充てる**ことをお勧めします。

3. 新しい年があと2週間でやってくる

会社の事業年度が12月というのは少ないかも知れませんが、しかし暦では一年の終わりは12月31日です。忘年会やXmas等で街角が賑わってくるのも12月。心躍るのは師走の風物詩でしょうか。

この12月、皆さん方はどのように使っていますか？この12月を一年間の総決算の月として活用してみませんか？**決算につきものといえば棚卸**です。ということで、（事業年度の途中であっても）**今年の棚卸**をしてみてください。

「掲げた目標を達成したか」「やりきれなかったことは何か」「新しいことに挑戦したか」等々、自分（と会社）を冷めた（！）目で見つめて下さい。今日の次は明日。明日は今日の延長線です。**正しい棚卸をしておけば「未来は素晴らしい日々となる」確率はとても高くなる**と私は信じています。